川崎製鉄(株)技術研究所の開設10周年を祝って

元金属材料研究所所長　橋本宇一

このたび，川崎製鉄技術研究所が開設10周年を迎え，川崎製鉄技報にて，10周年特集号を刊行されることは，誠に有意義のことであり，衷心よりおよろこび申し上げます。

川崎製鉄は，会社の運営の中心を技術に置き，技術を売ることで著名な会社であります。創立者の故西山彌太郎氏を始めとし，代々技術者を総帥として斯界をリードする力量を誇っております。

その中にあって，川崎製鉄技術研究所は全社技術開発の中心として，今井光雄前所長，三本木貢治現所長の御指導の下で立派な業績を挙げておられる様子は，御同慶にたえないところであります。

この10年間の科学，技術の進歩は目ざましいものがあります。なかでも，わが国の鉄鋼業の飛躍的な成長は，世界の驚異であり，注目の的であります。効率的な設備の新設や運転，適切な操業技術の開発，高品位・一定品質・かつ低価格の製品，どの面をとっても世界一位にランクされる技術内容を包含しており，その各分野に優秀な製鉄技術者の創意工夫が生かされていることは，衆目の認めるところでありますし，大河内賞その他によっても明らかに評価されております。このような成長の一翼を担ってきた川崎製鉄が，さらに独自の研究を重ねて新規な，あるいはより優れた特性を有する鋼材の開発や，より優れた品質，生産方式，高度な経済性などの実現を通じて斯界の発展に一層貢献されることを要望してやみませんし，川崎製鉄であれば可能と信じます。

ところで，近年いくつかの問題が起こっております。まず，あまりにも飛躍した日本の製鉄技術への世界からの警鐘であります。現在世界の鉄鋼需要は1977年に6億9 000万トンであり，同年日本の生産量1億240万トンは，約15%に相当します。原燃料を持たぬ日本は，殆ど全量を輸入し，製品鋼材の

約35%，すなわち約3 500万トンを輸出しています。秩序だった原料輸入，製品輸出が世界の鉄鋼界から要望され，期待される所以であります。

次に，大都市周辺を中心とする生活環境と，製鉄業との調和の問題であります。生活水準の向上を目ざす都市生活者の環境と工場とは，調和のとれた共存が成り立たねばなりません。ここにも英智を集めた解決法が必要になってまいります。

この様な問題点は，鉄鋼業と社会，鉄鋼業と世界という外界環境との関連を，示唆したものであります。すなわち，科学技術が社会の進歩に貢献するべく存在することから，あらかじめその主効果と共に，広く副次的影響を考慮することが必要であります。今後，わが国の鉄鋼産業を，より評価高からしめるための，皆様方の一層の御研鑽を要望いたします。資源に乏しいわが国として，輸入資源の効果的な使い方と共に効果的な資源の回収回転に加え，同じ目的を果たすための鉄鋼以外の材料に対しても，目的の如何では資源の枯渇と最も適切な材料という観点から常に大所高所から考慮に入れておかれる必要があるのではないでしょうか。

川崎製鉄技術研究所開設10周年を迎えるにあたり，より一層の発展を願うと共に所感の一端を述べ，御参考に供するしだいであります。